

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	室内気流・換気・通風小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	空気環境運営委員会	
設置期間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内気流、換気、通風に関連した諸問題の中で、全国調査や翻訳、既往文献調査、規準作成など、共同研究によって解明するのが適当なトピックスについて議論し、必要に応じて研究グループを設けて研究を実施する。 ・ 作業ワーキングの設立、運営、調整を行なう。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：なし	
	主査：倉淵隆(東京理科大学)，幹事：山中俊夫(大阪大学)， 委員：新田勝通(京都工芸繊維大)，西岡利晃(大阪市立大学)，甲谷 寿史(大阪大学)，清田 誠良(広島工業大学)，吉野 博(東北大学)，永田明寛(都立大)，岩下 剛(鹿児島大学)，澤地孝男(国総研)，大場政昭(工芸大)	
設置 WG (WG 名：目的)	建物換気測定 WG (換気量の予測・評価法を調査・検討する) 学校空気環境調査 WG (学校教室の環境調整法を検討する) 自然換気・通風 WG (通風の文献と、自然換気ビルの調査を行う) 住宅厨房換気 WG (厨房の適切な換気法を検討する)	
2006 年度予算	180,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：なし

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回(年度内計画を含む)(空気環境運営委員会、WG にて議論する)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 第 17 回空気シンポジウム「小学校における空気環境の現状、これからの学校環境」 参加者数 109 名 (資料名) 同上
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. Building Ventilation の翻訳を作成した。 2. 小学校における室内環境調査結果を空気シンポジウムで公表した。 3. 自然換気に関する文献調査結果を、第三回自然換気 WS で公表予定。 4. レンジフードの現状と海外基準について資料収集を行った。
委員会活動の問題点・課題	Building Ventilation の翻訳を年度内に公表することが困難となった。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>建物換気測定 WG は、これまで実施してきた Sandberg らによる換気の教科書の翻訳のとりまとめ作業を概ね終了したが年度内に刊行には至らなかった。</p> <p>学校空気環境調査 WG では、東北と関東を対象とした調査を行い、成果をとりまとめて空気シンポジウムで公表した。</p> <p>自然換気・通風 WG では、通風力学に関する既往研究の収集と概要分析が終了し、第三回自然換気に関する国際 WS にて発表を予定する。</p> <p>住宅厨房換気 WG は本年度より活動を開始し、内外のレンジフードや関連基準の調査を実施しており、2009 年度の空気シンポジウムにて公表の可能性を模索する。</p> <p>上記のように、各 WG は当初予定の活動を実施し、いくつかの成果公表を行ったことから A 評価とした。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。